



2025年8月期 第1四半期決算説明 質疑応答集

この質疑応答集は、2025年1月9日の決算発表後、アナリストや機関投資家等の皆様からいただいた主なご質問をまとめたものです。ご理解いただきやすいよう、一部内容の加筆・修正を行っております。

Q1： トーセ・フィリピンの清算や、2024年8月期に発生した不採算案件に係る費用については、同期に引当した範囲内で推移している状況でしょうか。また現時点でそれら以外に、新たに発生した懸念事項や、想定外の事態等はないでしょうか。

A1： トーセ・フィリピンの清算処理は大きな遅滞なく進められており、現時点では清算費用は2024年8月期に引当計上した範囲内で推移しています。今後も引当計上を超える追加費用が発生する見通しではございません。2024年8月期に発生した不採算案件については、2024年8月末までに大部分の納品が完了していることから、2025年8月期への影響はございません。

現在進行している開発や運営のプロジェクトは概ね良好な進捗状況であり、想定外の問題等は発生しておりません。2024年9月に設置したプロジェクトマネジメント支援室では、特に大型の開発プロジェクト数件に対して定期的なレビューを実施しております。今後も着実に事業活動を推進してまいります。

Q2： 2025年8月期の第1四半期は、一部の稼働が高くないとのことですが、今後取り組むプロジェクトはすでに決まっているのでしょうか。もしくは、しばらく高まらない状態が続くのでしょうか。

A2： 当第1四半期は一部開発ラインの稼働に余裕のある状況でしたが、第2四半期以降に立ち上げを予定している開発プロジェクトがあることから、稼働はゆるやかに高まっていく見通しです。

Q3： 売上・利益ともに好調に推移しているようですが、利益率も良くなっていることから、レベニューシェアの増加も貢献しているのでしょうか。

A3： 当社が開発や運営に携わるタイトルの、エンドユーザーへの販売等が好調だったことによりレベニューシェア¹が想定を超えて推移したことは、利益率が好転した要因のひとつです。しかしながら、キャンペーン等による一時的なものと考えており、同様の状況が継続することは想定しておりません。

Q4： 決算説明資料のなかで、2025年8月期に5億円以上の売上を予定している家庭用ゲーム機・PC関連の開発プロジェクトが4件紹介されていましたが、2024年8月

¹ 開発したタイトルの販売に応じて分配される成功報酬であり、原価を伴わない収益。



期には、同規模の開発プロジェクトが何件あったか教えてください。

A4： 2024年8月期に5億円以上の売上を計上した家庭用ゲーム機・PC関連の開発プロジェクトは2件でした。しかしながら、中小規模のものを多数扱う場合もあることから、当該件数とその期の売上・営業利益等の業績が必ずしも相関するとは限りません。ご参考としてご覧ください。

Q5： 海外顧客との開発プロジェクトを開始されたとのことですが、どのようなゲームソフトの開発であるかや、どのような顧客からの依頼であるかなど、可能な範囲でもう少し具体的にお聞きできますでしょうか。

A5： 試作段階であり、クライアントとの取り決めからも、現時点では具体的にお伝えできないことがございます。お伝えできる内容が出てきた際にはご紹介したいと思えます。

Q6： 非ゲームコンテンツを、これまでのデジタルエンタテインメント事業からその他事業に移管されたようですが、セグメント変更を決定されるきっかけとなるような変化がすでにあったのでしょうか。エンタテインメント系アプリの開発に取り組まれているとの説明もありましたが、もう少し具体的にお聞きできますでしょうか。

A6： 当社のゲーム開発技術や広範なネットワークを活かした非ゲームフィールドへの挑戦はこれまでも進めてまいりましたが、2024年8月期から2025年8月期初頭にかけて、ゲームとは異なるエンタテインメントアプリ等の開発プロジェクトに関する具体的なご商談が複数件進んだことから、ゲームフィールドの事業活動と明確に切り分けることといたしました。また2024年8月期の決算に際してもお伝えいたしました。当社の事業はゲーム業界の動きによって影響を受ける部分が大きく、それも2024年8月期には損失が重なる事態となってしまったため、非ゲームフィールドの事業の割合を拡大し、リスクの分散を図っていきたいと考えております。

Q7： 下期に成長のための投資を検討されているとのことですが、具体的にはどのような内容を計画されているのか、教えてください。

A7： 事業活動や業績の動向を注視しながら検討している段階ではありますが、AIに関するものを含む研究開発への投資や、開発力向上のための社内教育の拡充など人的資本への投資、また拠点や施設設備の整備などを考えております。

Q8： 第1四半期時点の営業利益・経常利益・当期純利益が、いずれも通期予想を上回っている状況です。まだ先行きの不確実性が高いとのことですが、通期の業績予想は据え置かれています。第2四半期以降に大きな損失や費用を計上される具体的な予定があるのでしょうか。

A8： 第2四半期以降に損失や大きな費用を計上する具体的な予定はございませんが、第



1 四半期に稼働が高まっていなかった一部開発ラインの、今後の稼働の高まりはゆるやかなものになると想定しております。また第1四半期の好調な連結業績の要因である、一部の開発プロジェクトでの高い進捗や、一時的なレベニューシェアの増加も今後は落ち着く見通しです。試作段階の開発プロジェクトはまだ開発中止の可能性も一定程度あることも考慮し、通期業績予想の見極めは慎重に行っております。A7の通り、下期に成長のための投資を検討していることなども踏まえ、現時点では前回予想を据え置きとしております。

以上

IR メール登録のお願い-----

投資家の皆様への情報発信充実化を目的に、IR メールを配信しています。

是非ご登録ください。

<https://www.magicalir.net/4728/mail/index.php>